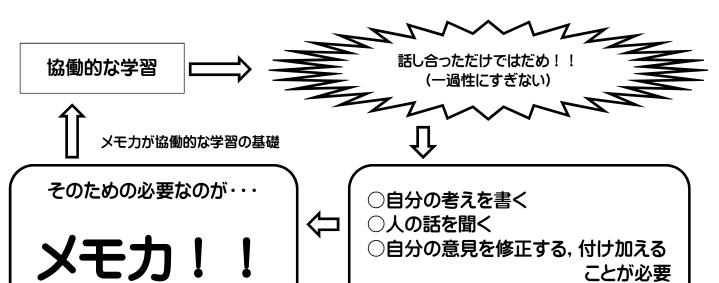
東二番丁小学校研究通信

主体的に考える児童の育成 一 国語科における協働的な学習を通して

平成29年5月18日 No2

学びの連携サポート訪問打ち合わせより

先日、「学びの連携サポート訪問」の打ち合わせで遠藤和彦先生が来校されました。国語科と協働的な学びの関係について、年間通して御指導いただきたいという旨をお伝えしたところ、書く力の重要性についてのお話をいただきました。簡単にまとめてみましたので、今後の授業研究や日々の指導で意識できればと思います。



メモカを養うにはどうしたらよいか??(例)

○授業のはじめにめあてを書くとき

終ってから視写するのではなく、教師が声を出しながら書き、児童はそれを聞きながら書かせる。(黒板をあまり見ないで書く)



聴写力を養う!!

※日常的に、いろいろな場面で!!

さらに、書き終わったら本文を黙読 する、書いたものを声に出して読む (推敲力を高める)など、その後に やる活動も習慣化させるとよい。



- ○チョークを教師が置いたら鉛筆 も置けるようにする
- ○「三つ話します」といったら、児 童が三つ丸をノートに書く 等

協働的な学び

書くことが前提、書くことが大事。 書くことで成果や変容も見取れる。